

概念フレームワークの改善
第2章 質的特性と制約条件
—FASB/IASB[2008]ch.2—

財務会計論A

1

FASB/IASB[2008]第2章

- 第1章で「一般目的財務報告の目的」を規定。
- 「目的」は、資本提供者の意思決定に有用な財務情報を提供すること。
- 受託責任の評価に有用な情報の提供は、上記の「目的」の一部として位置づける。両者の関係性は曖昧(不明)。

2

質的特性の意義と種類

- 財務情報を有用にする属性(QC1)
- 基本的特性
目的適合性…予測価値, 確認価値(フィードバック価値)
忠実な表現…完全性, 中立性, 無謬性
- 補完的特性
比較可能性, 検証可能性, 適時性, 理解可能性
- 一般的制約条件
重要性, コスト

3

2006年DPと2008年EDの比較

2006年DP	2008年ED
質的特性 1.目的適合性 予測価値, 確認価値, 適時性 2.忠実な表現 検証可能性, 中立性, 完全性 3.比較可能性 4.理解可能性	質的特性 (1)基本的特性 1.目的適合性 予測価値, 確認価値 2.忠実な表現 完全性, 中立性, 無謬性 (2)補完的特性 1.比較可能性 2.検証可能性 3.適時性 4.理解可能性
制約条件 1.重要性 2.コスト・ベネフィット	一般的制約条件 1.重要性 2.コスト

4

基本的特性

財務情報が有用であるための特性(QC2, BC2.55)

1. 目的適合性
利用者の意思決定に影響を及ぼしうること(QC3)
must be capable of making difference…(→BC2.3)
意思決定と事象の関係。財務報告で描写されるべき経済事象を
同定。他に先立って考慮される(QC12, BC2.56)
2. 忠実な表現
経済事象の描写が、完全で、中立的で、重大な誤謬を含まないこと。
経済的事実をしめすこと(QC7)
どの描写が最も適切に目的適合的な事象を反映しているかを判断
(QC13)。描写と事象の関係(QC14)。

5

補完的特性

基本的特性を補完し、情報の有用性を補強・改善する(QC15,25)。

1. 比較可能性
目標。首尾一貫性は手段。「同じものは同じように…」の定型句(QC18)。
2. 検証可能性
直接的検証可能性, 間接的検証可能性(QC21)。
3. 適時性
4. 理解可能性

6

制約条件

財務報告で提供される情報を制限(QC27)

1. 重要性

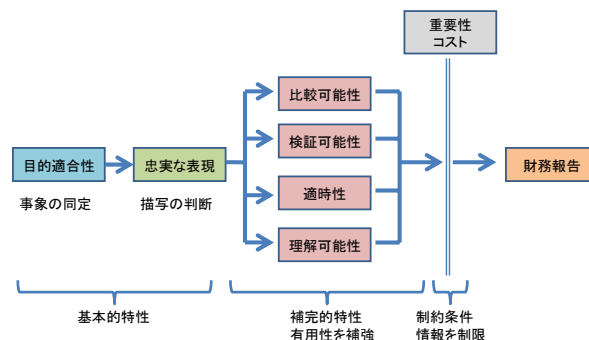
情報の省略や誤った表示が、意思決定に影響を及ぼすならば、当該情報は重要(QC28)。

2. コスト

コスト・ベネフィットの評価は、定量的であるよりも定性的(QC29)。困難性の認識(BC2.60)。

7

質的特性の相互関係



8

論点整理

1. 目的適合性

意思決定に影響を及ぼしうる…。
FASB概念書の表現を採用(BC2.3-4)。

2. 忠実な表現

CLでの多くの反対・批判を押し切って採用。

3. 他の特性

透明性、真実かつ公正な概観、信頼性、内的整合性、高品質。すべて不採用。

4. 特性の2分類

9

忠実な表現の採用

1. 信頼性の含意のより明確な伝達(BC2.14)。
2. 信頼性に関する共通の理解の不足・欠如(BC2.13)。一用語の再考。
3. CLの批判的意見への対応。①現行FWにおける信頼性に関する記述とは異なる記述、②検証可能性に近い理解。

- (1) 信頼性を忠実な表現に変更する決定の必要性を確信させた(BC2.16)。
- (2) ①重大な誤謬の不在を忠実な表現の要素とする、②検証可能性を忠実な表現から排除する(BC2.16)。

10

真実かつ公正な概観

1. UKおよびアイルランドにおける財務報告の根幹。UK会社法、EU会社法指令第4号、第7号に規定。しかしどの法律も定義を示していない(BC2.38-39)。
2. 例外規定の採否とは切り離し、質的特性に加えるべきか否かを検討。
3. 質的特性ではなく、質的特性を適用した結果であるべきと結論づけた。T&FVを表示することは、忠実な表現と同じ(BC2.41)。

11

内的整合性

1. 望ましいものであり、概念的アプローチから必然的に達成されるべきもの(BC2.46)。
2. しかし、特性として追加するべきでない。
3. 新しい基準が内的整合性を具備しないという理由で、有用性を改善する一体の基準の進化を妨げる可能性がある(BC2.46)。

藤井[2007]105-106頁。「慣行の維持・継続」のための理屈として機能する可能性。

12

特性の分類

1. 質的特性をどのように関連づけるかについて、回答者たちは誤解している。
2. 情報の有用性にどのように影響を与えるかに応じて、基本的特性と補完的特性に2分類(BC2.54)。
3. FASB概念書第2号のようなチャート図の作成は時期尚早。認識、測定、表示、開示等の問題とも関連(BC2.53)。

13

まとめ

1. FASB/IASB[2006]への批判的コメントは、むしろ予備的見解で示された諸提案の採用を促進する要素として機能した。
2. 信頼性の忠実な表現への変更。忠実な表現の構成要素から検証可能性を排除。重大な誤謬の不在を基軸とする概念に再構成。
3. FASB/IASB当局者の信念を、さらに一層純化した形で特性を再定式化。経験対象と認識対象の混同のさらなる深化。経済的実質の忠実な表現＝目的適合的な情報→有用な情報。

14